

路)とも言うべきこれらのルートは主に次の四本に分かれていたようです。

①天竜川東側ルート

信濃阿南↗和合↗売木↗参河豊根↗東栄
↗佐久間↗春野↗三倉↗下川根↗伊久美
↗滝沢↗藤枝

②天竜川東側ルート

信濃上村↗平岡↗遠江水窪↗気田↗瀬沢
↗駿河笹間↗蔵田↗藤枝

③富士川・安倍川ルート

甲斐早川↗笹山↗井川↗日向↗朝比奈↗
小園↗藤枝

④富士川・安倍川ルート

甲斐身延↗梅ヶ島↗有東木↗中沢↗日向
↗朝比奈↗小園↗藤枝

以上のルートを見てわかるように、藤枝はマッシュルームロードの終着点であり、江戸期の藤枝は日本有数の交易都市だったのです。

●藤枝で発達した椎茸貯蔵技術

椎茸・茶の集積地である藤枝には、各地からもたらされた産物を保管しておく貯蔵技術が発達しました。大口仲買人や問屋は通称「お蔵」と呼ばれる、温度調整や防湿機能を備えた土蔵を保有していたほか、木箱に幾重にも和紙を貼り、その上に柿渋、ろうを塗った「茶箱」を開発するなど、食品保存に適した先進技術を持っていました。

「茶箱」に入れた椎茸を「お蔵」で保存しておく、秋になっても色の良い春子椎茸が売れるため、藤枝には日本全国から上質の椎茸を買い求める商人が集まりました。

